1 自己評価及び外部評価結果

（ユニット名　　1F　　）

事業所番号	0672600350		
法人名	有限会社　葉山		
事業所名	グループホーム　はやま荘		
所在地	山形県東置賜郡高畠町大字高畠530－1		
自己評価作成日	平成23年　10　月　28　日	開設年月日	平成18年　3　月　23　日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。（↓このURLをクリック）
（公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3―31		
訪問調査日	平成　23年　11月　22日	評価結果決定日	平成　23年　12月　9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりの思いと家庭的な雰囲気を大切に『穏やかに・ゆったり』と過ごしていただけるよう支援しています。そして馴染みの関係を継続していけるよう、また、有する力を活かし、できる限り自立した生活ができるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

今年度、開設6年目を迎え、更なる質向上を目指し職員全員で、新しい理念を作り、基本方針を掲げ、地域の中で安心と尊厳のある生活を大切にし、心に寄り添うケアに取り組んでいます。利用者の生活の様子や行事等のスナップ写真を一人ひとりのアルバムに収め、家族に見せるなど情報の共有と連携に努めています。冬仕度、干し柿やおみ漬など利用者の出来ることや、日々能力を活かす取り組みを行ない支え合う関係を築き、利用者・職員の笑顔やコミュニケーションも良く、とても明るく和みのある雰囲気に事業所全体がゆったりと温かく包まれています。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1．ほぼ全ての利用者の
			2．利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1．毎日ある
			2．数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている　（参考項目：38）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1．ほぼ全ての家族と
			2．家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1．ほぼ毎日のように
		○	2．数日に1回程度
			3．たまに
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1．大いに増えている
		○	2．少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1．ほぼ全ての職員が
			2．職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1．ほぼ全ての家族等が
			2．家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどできていない

山形県地域密着型サービス「1　自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	6年目に入り更に介護の質向上を目指し、職員一同で新しく理念を作り共有し実践に活かせるよう取り組んでいる。	開設6年目を迎え、職員全員でアイディアと意見を出し合い、理念の見直しをしている。心ひとつにして地域との繋がりを大事に、職員一人ひとりが目標や自覚を持つようになり、理念の再確認を意識付けしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り見学や町の敬老会へ参加し、顔なじみの方との挨拶や交流を大切にしている。また、はやま荘の夏祭りにも近隣の方々が参加されるなど地域とのつながりを大切にしている。	町の伝統ある「青竹ちょうちんまつり」の見学や地区敬老会参加、高校生やボランティアの来訪など日常的に交流を図っている。また、事業所の行事にも近隣住民に案内をし、利用者が地域の中で安心した生活を継続していけるよう、ふれあいを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や視察研修に来荘されたさいなど、随時相談の受付をしていることや認知症の理解に向けて説明させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。利用者やホームの現状報告、行事予定の連絡やその他きたんのないご意見を頂いてサービス向上に活かしている。	定期的な会議にはサービス提供状況や報告の他に避難訓練・食中毒・節電など毎回テーマを設け開催している。家族や役場・民生委員・地区委員・老人相談員等の参加者より忌憚の無い意見をもらい、意義のある双方向なものとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などを通し荘内の様子を理解していただいている。また、相談、指導を頂くなど常に連絡を蜜に行いながら協力関係を築いている。	町の担当者には運営推進会議等で事業所を理解してもらっている。すぐ目の前が役場と言う立地条件に、互いに何かと出向き連絡を取る機会があり円滑な連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	安全に過ごしていただけるよう見守りの工夫を行い、職員全員で声がけし連携を図っている。また、利用者の方々のそれぞれの思いに寄り添う関わりを行うことにより穏やかに安心して自由な生活ができるよう支援している。	職員は利用者の思いを大切にするケアの意味を理解しており、禁句用語や拘束の無い関わりの研修を行ない、職員同士声がけを徹底し、見守りを優先に全体で取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高畠町高齢者虐待防止連絡会に毎回出席。また社会福祉研修センター主催の職員研修にも参加し学び、ミーティングのさい報告、絶対あってはならないことを職員全員学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し学ぶ機会を得ている。また、社会福祉協議会、地域包括支援センターと連携を取り合い活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所のさい、契約書、重要事項説明書を充分な時間をかけ説明を行い信頼関係を築き、理解、納得して頂き、署名捺印を頂いている。改定のさいも同様に署名捺印を頂いている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・希望受付窓口を設置している。また、運営推進会議や家族等の訪問時いろいろな意見を頂き運営に反映させている。	家族全員に案内を出している運営推進会議や行事に参加した際、随時の訪問時に積極的に声を掛け、気兼ねなく要望等を話せる雰囲気作りに努めている。出された希望や相談等の記録を残し、家族や職員との共有に活かしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と全職員参加のミーティングを毎月行っており、自由に意見や提案を出す機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は自ら職場に足を運び職員一人ひとりの声がけを行いやる気を引き出している。また、職員の意見を考慮し環境整備や条件の整備に努めている。		
13	（7）	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティングではテーマを決めた内部研修を実施している。また、外部研修に於いても、職員の段階に応じた研修を受ける機会を確保するため年間計画を立て行っている。	「認知症の理解」や「今必要と思われること」等を継続テーマに、事業所＝家庭であることを認識し、月1回の内部研修会を全員参加で行なっている。内外研修の報告書をまとめ、スキル等を職員間で共有できるようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協会に加入し、情報交換や交流、勉強会、交換実習に参加してサービスの質向上に活かしている。	県グループホーム連絡協議会の研修や町主催の福祉・医療関係者などサービス事業者会議等に参加し、交流や連携、ネットワークづくりが図られ、相互の質向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境となり不安な気持ちに寄り添い、ゆっくりと本人の思いに耳を傾けている。また、家族や、在宅時の支援事業所よりこれまでの生活のようす等の情報を得え、思いを探る手助けにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が望まれること、不安なことを全て伺うことで安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が相談に来荘されたときや事前の面接のさい、他のサービスが適当とおもわれる時は、入所判定会議で充分話し合い、家族にも理解をいただき対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、先輩の方々よりこれまで培ってきた経験をもとに季節の習慣や料理の仕方を教えもらい共に行い、喜びや楽しみを共有している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族との連絡を蜜に行い情報を共有している。また、行事等にも参加していただき楽しい時間を一緒に過ごしていただいている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時の隣組の方や知人が訪れている。馴染みの美容室へ出かけたり、これまでかかっている歯医者を受診しているなど人や場所との関係を継続できる支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話や日々の行動のようすを観察し、気の合う仲間作りができるよう働きかけている。また、食席などにも配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、家族の方がみえられ経過を話される方もいる。いつでも相談に応じていることを伝えている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴を心がけ、日々の会話や行動、表情などから一人ひとりの思いに寄り添うよう努めている。また、アセスメントツールのセンター方式を活用している。	日頃の会話やふれあいの中でゆっくり傾聴して、利用者の意向を尊重し思いを掴み取れるようにしている。一人ひとりに合わせたシートの活用をし、情報をより細やかに把握できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、訪問された知人の方より情報をお聞きしたことをフェスシートにまとめ職員で共有している。また、居宅のケアマネとも連携しサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルチェックと表情を観察し体調把握に努めている。ゆっくりと関わりながら会話や行動を観察、アセスメントツールのセンター方式シートを活用し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人、家族等より意見、要望を伺ったり、ケース会議等で課題を見つけ一人ひとりの希望に添えるような介護計画作成に努めている。	本人や家族等の思い、言葉で表出できない人等の「何を今望んでいるのか」ニーズを探し目標に繋げている。職員の気づきは日々のケース記録等やカンファレンスなどで話し合いプランや見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの実践の様子等個人の記録に記入し職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに反映させている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来訪や地区の公民館での敬老会への参加受け入れなど協力をいただき、日々のっ生活に彩りを添えていただいている。また、消防署員の協力を得て指導を受けながら避難訓練などをおこなっている。		
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にかかりつけ医を決め受診を支援している。また、協力医により月1回の往診をしていただいている他、体調不良時などは電話での相談にも即受け入れていただいている。	職員付き添いで、利用者・家族の希望に添った受診をしている。月1回協力医の往診があり、夜間や急変時はいつでも駆けつけてもらえる良好な支援体制を築いている。歯科の訪問診療も行なわれている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は在籍していないが、常に主治医、協力医に相談、適切な受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したさいは、病院の医療連携室との連絡を蜜に行いまた、介護サマリーや看護サマリーなどで情報を交換している。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の希望を大切にし、かかりつけ医との連携を蜜にして方針を共有し支援に取り組んでいる。	自然な形で看取りを行なったケースがあるが、今後は職員の体制や力量を高め、家族や医療機関等とも話し合いを重ね、命に係わって取り組むケアを目指している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急処置実施講習会や、AED講習会に参加し、研修後はミーティングで実演、発表し実践力を身に付けている。		
35	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導のもとに非難訓練、防災研修を行い、全職員が身につくようにしている。また、運営推進会議等のさい近隣の方々の協力をお願いしている。	消防署の指導を得て、外への避難、室内での移動・誘導・避難場所の確認等の訓練を年2回行ない、その他防災研修でAEDや消火器の使い方等を実施している。地域の方には運営推進会議等を通じて協力依頼をしている。震災後は食料・水・乾電池等の備蓄をし、更に訓練回数を増やすなど多様な想定での実施を目指している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	（14）	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの今まで大切にしてきた誇りを尊重し、人生の先輩として尊敬の念を持って対応している。トイレへお誘いするさいなど言葉や声かけに十分配慮している。	利用者の生活暦や大切にしてきたものに心を配り、プライドを傷つけない様にしている。名前の呼び方にもこだわりを持って、尊厳を大事に向き合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を自由に表出し自己決定できることば掛けや環境づくりに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して無理強いせず、一人ひとりの生活リズムに合わせた支援をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に合わせ、理容師さんの訪問を依頼したり、また馴染みの美容室へ出かける方もいる。衣類も本人と共に買い物に行き好みのものを購入するなど家族と協力しながら支援している。		
40	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れたメニューを心がけている。食事をしながら季節を感じたり、懐かしく思い出される行事などの会話もはずみ職員も一緒に楽しく味わっている。食材の皮むきやきりかた、味付け、においを感じていただいたり、食卓の台ふきなど個々の力に合わせ職員と共におこなっている。	メニューは利用者の希望を聞きながら職員が作成し、行事食をふんだんに取り入れ、季節感を大事にしている。家族等から野菜の差し入れが多くあり、新鮮な食べ慣れた味を出している。利用者が「昔取ったきねづか」の漬物や干し柿づくりに精を出し、楽しい食事に繋いでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食の食事量、おやつ、水分摂取状態を確認し記録している。個々の嚥下状態、または好みや習慣に合わせ調理方法を工夫し十分に栄養を確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の習慣を大切にしながら一人ひとりの口腔状態に応じた口腔ケアを行い健康を保つよう支援している。		
43	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し声がけなどに配慮しながらトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表でパターンをつかみ、時間を見計らって誘導し、自立に向けた支援をしている。トイレは3枚扉とカーテンの2つが設置され、車椅子でも自由に出入りできるようになっている。長時間かかる利用者にはひざ掛けを用意するなど優しい配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、寒天、食物繊維の多い食材などを摂取することにより下剤に頼らない便秘予防に取り組んでいる。		
45	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望を取り入れ、以前の習慣を尊重した入浴支援を行っている。希望により入浴剤も使用し温泉気分を楽しんでいただいている。	午前・午後と入りたい時間に柔軟な対応で、好みの温度設定にし見守りと介助を行っている。入浴拒否のある場合は足浴から誘って、歌を歌ったり温泉マークをつけたりして無理のない支援をしている。入浴時には皮膚等の観察にも気をつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣に応じ、休息や睡眠を安心してできるよう環境つくりをしている。昼寝のさいなど本人がお気に入りの所で安心して過ごせるよう支援行い、ホールのソファーで眠られる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋一覧を作成しており、職員は一人ひとりの薬について理解している。症状の変化を見極め主治医と連絡を取り中止や変更の指示を受けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用し日々の生活が生き生きとしたものとなるよう支援している。個々の趣味活動で出来上がった作品を展示したり、季節の味覚を楽しんだり、ドライブ、カラオケなど行っている。最近ではカラオケに集まる利用者の方が増えてきてマイクを持たない方も一緒に歌っている。		
49	（18）	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添い、散歩やドライブ、買い物、彼岸のお墓参りなど出かけている。また、家族にも協力いただき外食や希望の所へ出かけられている。	以前親交のあった方が亡くなり、職員同行で線香あげや馴染みの店に買い物に行くなど個別の支援が行なわれている。車椅子の利用者も出かける機会を作り、みんなでドライブを楽しみ、又プランター菜園や花の水やりに出て外の空気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に応じて所持していただいている。散歩の途中、自販機でジュースを買って飲むのを楽しみにしている方や、化粧品を買いに出かける方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に家族と電話の交流のある方、また、友人と手紙による交流を楽しみにされている方もおり一緒にポストまで散歩を兼ね出かけている。		
52	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう装飾を工夫している。また、カーテン、すだれ、エアコン、床暖等で室温,遮光等配慮しゆったりと過ごしていただいている。	ソファーやテーブル、テレビコーナー等思い思いの場所でくつろげる工夫があり、利用者同士暗黙の譲り合いで気持ち良く過ごしている。壁面には利用者手作りの作品が季節感を醸し出し、温かい雰囲気に満ちている。室内の表示は利用者目線に合わせた位置にわかりやすくなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやテーブルの配置を工夫し自由にくつろげる空間、気のあった仲間同士で過ごせる場所や独りで過ごせる場所をつくっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使っていた好みの物、衣類、寝具、家具等を持ってきていただき、馴染みの環境つくりを心がけている。	椅子や家具、家族の写真・山の絵・暖簾等思いや慣れ親しんだものが置かれ、家族との絆を感じつつ、居心地よく過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	在宅時からの習慣を大切にしポータブルトイレの位置を同じくしたり、トイレの表示は利用者目線に合わせ迷わずトイレへ行ける工夫をしている。		